

## 市長対話集会「笑顔のふれあいトーク」開催結果概要

団体の名称	おむすびの会
日 時	令和2年6月24日（水） 午後2時00分～午後3時00分
会 場	桐生市立青年の家 講堂
テ ー マ	休校と再開、そして今後について

### <内容>

- 1 開会
- 2 代表者あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 議題

#### （1）休校と再開、そして今後について

##### ■意見交換内容

意 見	<p>今般の新型コロナウイルス感染症対策による学校の休校については、学年が変わるタイミングであったため、先生方とのコミュニケーションも取れておらず、保護者が思っていることを伝えることがあまりできなかった。</p> <p>また、学校の再開後においても、各学校の対応は異なるようだが、先生と直接的なコミュニケーションを取る場がないのではないかと思う。</p> <p>休校中の宿題の受け渡し方法や分散登校期間中の登校日、簡易給食についても学校で食べるのか、持ち帰るのかの取り扱いも含め、学校によって対応が異なるのはどうしてか。</p>
市 長	<p>宿題の出し方については、学校の裁量権は校長先生が持っているため、教育研究所等でベースとなる資料を作成し、各学校で実情等に応じた内容を作成している。</p>
事務局	<p>給食については、消費期限が短いことから原則は学校で食べて、持ち帰らないということで対応した。しかしながら、学校によっては、給食を食べる時間が確保できなかった等、事情に応じて持ち帰ってもらったというケースもある。</p> <p>また、分散登校期間中の登校日の形態や時間が学校によって異なるのは、学校内が密にならないように配慮するため、各学校のクラス数や人数に応じた対応を行う必要があったものであり、一律に同じ条件にすると、学校側の対応が難しくなってしまうので、理解いただきたい。</p>

意見	簡易給食を持ち帰ってきたが、暑さで食べられないものとなってしまった。また、先日は下校時間が午後 3 時になるにも関わらず簡易給食のみであったので、そうしたところも配慮してほしい。
市長	仮に第 2 波が来るようなこととなった場合について、そうした意見を踏まえて対応を検討したい。
意見	宿題について、始めは教科書のここをやってくれというものしか示されなかったが、その後プリントを配布するので来てほしいといった対応になった。 各々の先生の負担を考えると、統一的なものを宿題に出せるよう、準備を行うと良いのではないかと。
事務局	最初の休校については、国からの要請に応じ、その後 3 日間だけ再開したが群馬県内の感染が拡大したことから、群馬県からの要請に応じ休校とした。 そうした急な対応であったことに加え、新学年に上がったタイミングであったことから、まだ習っていないことを宿題にするということの難しさがあった。 そのため、なるべく統一的な宿題・課題が出せるよう、教職員にも参加してもらいながら検討を進めて設問を作成したが、実施できたのは休校が終わる 1 週間から 10 日前であった。
市長	第 2 波が来てしまった場合は、今般の検討した内容を踏まえた準備を行いたい。
意見	学校の先生とのコミュニケーションが不足しているのではないかと考えられる。保護者に対する聞き取りを電話で行うだけでなく、直接子どもとコミュニケーションを取り、宿題の進み具合を確認するなど、勉強に対する意欲を出させるような声掛けをしてほしい。 第 2 波が来た場合や災害等で休校となってしまったときにも、短い時間で良いと思うがオンラインで朝の会的なものを実施できると良い。先生方との信頼関係の構築や子どもが学校、クラスの一員であるということを感じられるような機会を作れるよう、ツール、手法を検討してほしい。
市長	私のところに寄せられた声で圧倒的に多かったのは、子どもを学校に行かせることに対する不安であり、その中でも給食の提供に対する不安の声が多かった。
事務局	給食を食べる際にはマスクを外さなければならないことから、教育委員会にも給食の提供に関する不安の声が多く寄せられた。 また、学校の再開に当たっては、最初から従前どおりに行うのではなく、子どもの様子を

	<p>見ながら始めたかったことから、給食も最初は提供せずに、その後、簡易給食として段階的に実施することとした。</p>
市 長	<p>そうした対応と逆の方が良いという声や他市よりも対応が遅いのではないかといた声もあったが、桐生市では市民の安全を考え、当初から新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベントや施設の利用等については、群馬県の示す警戒度の基準よりも一段階厳しくしており、給食についても同様の取り扱いとした。</p> <p>休校の措置についても、国、群馬県からの要請があり、足並みを揃える中での対応とはなるが、休校して良かったのかという点については、結果として新型コロナウイルスの感染者が桐生の子どもから出ていないということから、間違いではなかったと考える。</p> <p>再開後の学校内で感染者が出ないよう、学校を中心に新しい生活様式の導入や3つの密の防止対策等に取り組んでいきたい。</p>
意 見	<p>学校内に感染者が出た場合、対応についてはどうなるのかなどの情報が届いてない。対応を定めたものはあるのか。</p>
市 長	<p>ガイドラインを作成している。</p>
事務局	<p>ガイドラインを市のホームページに掲出しており、原則は感染者が学校内に出たら、その学校を閉鎖することとしているが、感染者の状況や感染経路等の情報を踏まえた判断を市や県の衛生部局と連携して行うこととなる。</p>
意 見	<p>子どもの親が感染者となった場合はどうなるのか。</p>
事務局	<p>その情報をもって直ちに休校とはならないが、濃厚接触者となるので、市や県の衛生部局と相談し、感染者の状況や感染経路等の情報を踏まえた判断の結果といこうとなる。</p>
意 見	<p>感染者が学童の子どもにいた場合の対応はどうなるか。また、学童では密になっているのではないか。</p>
市 長	<p>学校と同様に休校となる。様々な団体等から寄附いただいたマスクを届けるために全ての学童を回ったが、指導員の方々が3密に配慮して実施していたと思う。</p>
事務局	<p>学童の実施に当たっては、通常の開設場所に加えて学校施設を開放してもらったり、利用の自粛をお願いしたりしていることから、通常よりも少ない人数で実施しているので、</p>

	理解してもらいたい。
意見	マスクを忘れてしまった子への対応や子どもが座る場所の間隔など、徹底することは難しいと思うが、運営方法を工夫して実施してほしい。
市長	医療従事者をはじめ、家庭の都合で学童に預ける必要がある家庭はあるので、そうした意見も踏まえた運営を検討していきたい。
意見	疑問が減ることで不安は減ることが考えられる。桐生市の考え方や、感染者が出た場合、第2波が来たときにどういった対応になるのかといったガイド的な資料をきちんと届けてほしい。
市長	不安を減らすためにも情報公開は大事だと考える。意見を踏まえ、丁寧に情報を出せるような対応を検討したい。
意見	今後、ますます気温が上がってくる中で、熱中症が心配である。マスクの着用についてもそうだが、定期的に水分を採るように指導してもらいたい。
事務局	最初は指導が必要であるが、子どもに考えさせることが重要であると考えている。 マスクは原則着用であるが、息苦しさを感じる場合などについては、先生の指示がなくても自己判断で外すことのできるように指導を行っている。また、水分補給についても学校による対応の違いはあるが、水を飲む時間を設けたり、自己判断で飲めるような指導を行ったりしているので、引き続き指導に当たりたい。
意見	休校期間の授業の遅れについて、夏休み等の短縮で補うことができるのか。また、通常では実施できていた内容がなくなるようなことはないのか。 学習指導要領に則った内容を教えるのも大事だと思うが、子どもが学校行事で体験することや意見を言い合える場が重要だと考えるので、心配である。
事務局	国からは、今年度中の対応が難しい場合、来年度に持ち越してよいということが示されているが、今後の状況が見えない中なので、桐生市としては今年度の残りの期間で休校期間の遅れを取り戻したいと考え、計画を立てている。 現実問題として従来どおりとはいかない状況であることは理解いただきたいが、授業時間を確保するため、復習に充てていた時間や意見交換を行う時間を少なくすることや、休校期間中の家庭学習を考慮した授業を行うほか、コロナ禍では結果的には学校行事を中止や縮小せざるを得なくなるので、その分は授業時間に充てたいと考えている。

	<p>学校教育については、意見のとおり、子どもが体験することや子どもにしかできないことを実施することが重要であることから、その点を十分に考慮し、必要な対策を講じながら学校行事等を可能な限り実施してまいりたいと考えている。</p>
意見	<p>体育の授業時間は少なくなるのか。身体能力の衰えが心配である。</p>
事務局	<p>各学校で今後の授業計画を立てており、全教科において授業時間は例年よりも少なくなるが、実技時間を極端に少なくするような対応は取っていない。なお、合唱のように大声を出すことや、身体接触がある等感染リスクが伴うような授業については、実施の仕方を工夫したり、年度の後半に行うように計画をしており、今後の状況によっては適宜計画を見直しながら実施することとしている。</p>
意見	<p>タブレット端末を導入すると聞いているが、今後の第2波に備え、どのように活用していくのか。</p>
市長	<p>今年度中に1人1台のタブレット端末の導入を目指し、群馬県と連携しながら進めている。</p>
事務局	<p>授業での活用も行うが、第2波が来てしまった場合のオンラインでの活用についても教育研究所等で検討している。先生方への教育をはじめ、インターネットの危険性の教育、インターネット環境のない家庭への対応等、様々な課題についての対応策を検討しているところである。</p> <p>なお、全国的にタブレット端末の需要が起きているため、導入には時間を要することになるので、理解してもらいたい。</p>
意見	<p>インターネット環境の整っていない家庭への対応はどのように考えているか。</p>
市長	<p>インターネット環境の整っていない小・中学生の子どもがいる家庭が約25パーセントとのアンケート結果があり、そうした家庭には、Wi-Fi環境がなくても繋げられるタブレット端末を貸し出すことなども含め、様々な対応を検討したいと考えている。</p>
意見	<p>インターネットの危険性やメディアリテラシーについては、親も勉強する必要があるので、親子で学べる機会を設けてほしい。</p>
市長	<p>おむすびの会でそういった取組は行えないのか。</p>

意見	そういったことを教えられる先生や専門家がいれば実施したい。
市長	そうしてもらえるとありがたい。
意見	メディア依存の心配もあるし、情報格差が広がることも心配である。 公共の場に Wi-Fi 環境を整備することは難しいのか。
市長	今年度中に各学校の教室に Wi-Fi 環境を整備することとしているので、仮に第 2 波が来た場合には、インターネット環境のない家庭の 25% の子どもだけが学校に来てもらえれば、密を作らないようにオンライン授業を行えるので、そうした対応も検討している。 まずは、そうしたことで対応していきたい。
意見	タブレットを使用したオンライン授業の実施に当たっては、インターネット利用の危険性も踏まえた使い方を教えてほしい。 また、タブレット端末を学校で利用するに当たっては、盗難や破損した場合の対応についても予め検討しておいてほしい。
市長	ふれあいトークは、保護者の方々が感じていることや子どもが願っていることなどを聞くことができる場としても活用可能な場であり、こうした機会を大事にしたいと考えている。 本日いただいた意見を参考にしながら、施策や対応を検討していきたい。

## 5 閉会